

改善方策実施計画書 担当部局：国際交流センター 責任者：国際交流センター所長 幹事：国際交流センター事務室

2011年3月10日

認証評価指摘事項						
点検・評価問題点	国際化への対応と国際交流の推進。					
改善方策	<p>【3-141-4】 「日本留学試験」の採用</p>					
計画	前期		中期		後期	
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
			→			
2010年度実施計画		達成時期	2010年度取り組み結果			
留学生向け入試につき、前期の複数日実施と後期の「日本留学試験」全学的採用を提案。		2010/12	A 完全に達成	○	B 達成半ば	C 未達成
			(BまたはCの理由) 平成23年度前期で2学科、後期で1学科が新たに「日留試」採用した。			
2011年度実施計画		達成時期	2011年度取り組み結果			
今後とも「日本留学試験」の全学的採用を提案。		2012/3	A 完全に達成	○	B 達成半ば	C 未達成
			(BまたはCの理由) 留学生むけ入試の「日留試」は今年度前期に13学科、後期に5学科で採用された。			
2012年度実施計画		達成時期	2012年度取り組み結果			
「日本留学試験」未採用学部との折衝を通じ、全学的採用の協力要請。		2013/3	A 完全に達成	○	B 達成半ば	C 未達成
			(BまたはCの理由) 入試委員会で、まだ未採用の学部・学科に、採用の要請をした。			
2013年度実施計画		達成時期	2013年度取り組み結果			
「日本留学試験」未採用学部・学科に採用の要請を引き続き行なう。			A 完全に達成	○	B 達成半ば	C 未達成
			(BまたはCの理由)			
2014年度実施計画		達成時期	2014年度取り組み結果			
			A 完全に達成	○	B 達成半ば	C 未達成
			(BまたはCの理由)			
2015年度実施計画		達成時期	2015年度取り組み結果			
			A 完全に達成	○	B 達成半ば	C 未達成
			(BまたはCの理由)			

## 改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	国際化への対応と国際交流の推進
改善方策	【3-141-4】 「日本留学試験」の採用

(2011年 3月 31日現在)

### 【現状の説明】

留学生向け入試につき、前期の複数日実施と後期の「日留試」の全学的採用を提案し、23年度前期について2学科が、後期に1学科が新たに「日本留学試験」を採用した。

所見

全学の採用をめざすならば、今後いろいろな説得の工夫が必要になるのではどうか

(2012年3月31日現在)

### 【現状の説明】

留学生向け入試につき、前期の複数日実施と後期の「日本留学試験」の全学的採用を提案しましたが、2011年度前期は13学科が、後期は5学科が「日本留学試験」を採用した。

入試委員会を通して、未採用の学部・学科に是非採用してくれるよう要望を出した。

所見

全学的採用に向けてかなり進展をしましたが、さらに一層の説得努力を期待します。

(2013年3月31日現在)

### 【現状の説明】

留学生向け入試で、前期の複数日実施と後期の「日本留学試験」の全学的採用を提案したがまだ全ての学科での採用には至っていないので、「日本留学試験」未採用学部・学科に採用の要請を引き続き行なう。

所見

提出期日までに未提出。次回からは期日を厳守してください。

計画達成年度（2012年度）を経過したので、未採用学部・学科に対する要請を一層強化することを期待します。

改善方策実施計画書 担当部局：国際交流センター 責任者：国際交流センター所長 幹事：国際交流センター事務室

2011年3月10日

認証評価指摘事項						
点検・評価問題点	国際化への対応と国際交流の推進。					
改善方策	<p>【3-141-5】</p> <p>日本での就職を希望する留学生に対する企業紹介・就職斡旋。</p>					
計画	前期		中期		後期	
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
			→			
2010年度実施計画		達成時期	2010年度取り組み結果			
留学生の就職支援が全学的課題であることの確認と、具体的対応の検討着手。		2011/3	A 完全に達成	B 達成半ば	○	C 未達成
			(BまたはCの理由)			
			留学生の就職支援が重要な課題であることの全学的認識が不足している。			
2011年度実施計画		達成時期	2011年度取り組み結果			
キャリア・センターと連携により、留学生の就職支援に関するレクチャーなどを開催。		2012/3	A 完全に達成	B 達成半ば	○	C 未達成
			(BまたはCの理由)			
			今年度の全学的就職状況が厳しい中、キャリア・センターとの連携による留学生のみの就職支援が実施できなかった。			
2012年度実施計画		達成時期	2012年度取り組み結果			
留学生の就職支援活動の具体的展開		2013/3	A 完全に達成	○	B 達成半ば	C 未達成
			(BまたはCの理由)			
			「就職活動日本語ハンドブック」を作成して、留学生の就職支援を図ったが、まだ完全な実施に至っていない。			
2013年度実施計画		達成時期	2013年度取り組み結果			
「就職活動日本語ハンドブック」を作成したので、それを使って、個別の指導も含めて就職活動の支援を完全なものにしていく。			A 完全に達成	B 達成半ば	○	C 未達成
			(BまたはCの理由)			
2014年度実施計画		達成時期	2014年度取り組み結果			
			A 完全に達成	B 達成半ば	○	C 未達成
			(BまたはCの理由)			
2015年度実施計画		達成時期	2015年度取り組み結果			
			A 完全に達成	B 達成半ば	○	C 未達成
			(BまたはCの理由)			

## 改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	国際交流推進の基本方針
改善方策	<b>【3-141-5】</b> 日本での就職を希望する留学生に対する企業紹介・就職斡旋。

(2011年3月31日現在)

### 【現状の説明】

「埼玉県留学生交流推進協会」での留学生就職支援プログラムに参加してきたが、本学内での留学生就職支援にはなお具体的対応が乏しかった。今後、キャリア・センターと連携しつつ、企業紹介や就職斡旋方法を策定する。

所見	具体策の策定と、情報収集をまず目的とすべきでしょう
----	---------------------------

(2012年3月31日現在)

### 【現状の説明】

キャリア・センターと連携して、留学生を対象とした企業紹介や就職斡旋などの就職支援活動が実施されなかった。今後、留学生を主に採用希望する企業に対する限定的な斡旋作業をしていきたい。

所見	2011年度のキャリア・センターとの連携による企業紹介や就職斡旋などの就職支援活動が実施されなかった原因を分析したうえで、留学生を主に採用希望する企業に対する限定的な斡旋作業に取り掛かるのが望ましいと考えます。なお、2011年度の取り組みに状況は「C 未達成」に○を付けてください。
----	---

(2013年3月31日現在)

### 【現状の説明】

「就職活動日本語ハンドブック」を作成したが、それを使った個別指導などがまだ徹底されていないので、さらに留学生の実情に合わせ指導して行きたい。

所見	提出期日までに未提出。次回からは期日を厳守してください。 「就職活動日本語ハンドブック」の作成は、評価します。実情に沿った個別指導の努力を期待します。
----	--

改善方策実施計画書 担当部局：国際交流センター 責任者：国際交流センター所長 幹事：国際交流センター事務室

2011年3月10日

認証評価指摘事項						
点検・評価問題点	国際交流推進に関する基本方針					
改善方策	<p>【3-142-2】 「国際交流センターが開設する、最初歩から院生クラスにいたる一貫した留学生カリキュラム」の展開。</p>					
計画	前期		中期		後期	
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
			→			
2010年度実施計画		達成時期	2010年度取り組み結果			
留学生・交流学生を対象とする日本語・日本事情科目の一元化の具体化。		2010/12	A完全に達成	○	B達成半ば	C未達成
			(BまたはCの理由) 大学院留学生向けの日本語教育については、大学院研究科との意見交換を含め未着手である。			
2011年度実施計画		達成時期	2011年度取り組み結果			
留学生院生への日本語教育について、大学院研究科との意見交換を推進。		2012/3	A完全に達成	○	B達成半ば	C未達成
			(BまたはCの理由) 大学院留学生向けの日本語教育については、特に留学生の多い外国語学研究科との意見交換は開始されたが、まだ不十分である。			
2012年度実施計画		達成時期	2012年度取り組み結果			
合意できた部分の実施。		2013/3	A完全に達成	○	B達成半ば	C未達成
			(BまたはCの理由) 留学生の多い外国語学研究科と意見交換を行なって、留学生カリキュラムの一貫性が完全に図られていない。			
2013年度実施計画		達成時期	2013年度取り組み結果			
留学生院生への日本語教育について、大学院研究科との意見交換をさらに進めて、一貫したカリキュラムの遂行を図りたい。			A完全に達成	○	B達成半ば	C未達成
			(BまたはCの理由)			
2014年度実施計画		達成時期	2014年度取り組み結果			
			A完全に達成	○	B達成半ば	C未達成
			(BまたはCの理由)			
2015年度実施計画		達成時期	2015年度取り組み結果			
			A完全に達成	○	B達成半ば	C未達成
			(BまたはCの理由)			

## 改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	国際交流推進の基本方針
改善方策	<b>【3-142-2】</b> 「国際交流センターが開設する、最初歩から院生クラスにいたる一貫した留学生カリキュラム」の展開。

(2011年3月31日現在)

### 【現状の説明】

留学生・交流学生用の日本語カリキュラムの一元化は実現したが、大学院留学生の日本語研究については、その実施方針等を含め研究科との意見交換から始める必要がある。

所見

現時点では特に問題なく、順調と思われます。

(2012年3月31日現在)

### 【現状の説明】

日本語カリキュラムの一元化が遅れていた大学院留学生の日本語研究については、その実施方針等を含め、特に留学生の多い外国語学研究科との意見交換が始まった段階である。

所見

外国語学研究科との意見交換に続いて他の研究科との意見交換の進展に期待します。

(2013年3月31日現在)

### 【現状の説明】

本学に留学生している院生への日本語教育について、各大学院研究科、特に留学生の多い外国語学研究科と意見交換をして、どのレベルの日本語教育が必要か、論文執筆のあたって更に高度な日本語教育が必要であるかなど協議を開始したが、実際カリキュラムに網羅し、指導していく段階には至っていないので、今後さらに協議を重ねて、効率の良い授業展開を図りたい。

所見

提出期日までに未提出。次回からは期日を厳守してください。

計画達成年度（2012年度）が経過したので、外国語学研究科以外の研究科との意見交換を早急に進めるよう期待します。

改善方策実施計画書 担当部局：国際交流センター 責任者：国際交流センター所長 幹事：国際交流センター事務室  
2011年3月10日

認証評価指摘事項						
点検・評価問題点	国際交流推進に関する基本方針					
改善方策	<p>【3-143-2】 留学生支援のためのカウンセラー（中国語の話せる）の配備。</p>					
計画	前期		中期		後期	
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
				→		
2010年度実施計画		達成時期	2010年度取り組み結果			
国際交流センター管理委員会内において、留学生支援のためのカウンセラーの設置について検討。		2010/12	A 完全に達成	B 達成半ば	○	C 未達成
<p>(BまたはCの理由) 学生部との合意不在であった。</p>						
2011年度実施計画		達成時期	2011年度取り組み結果			
引き続き国際交流センター管理委員会内において、留学生支援のためのカウンセラーの設置についての検討。		2012/3	A 完全に達成	B 達成半ば	○	C 未達成
<p>(BまたはCの理由) 学園の人事計画の中で、中国語の出来るカウンセラー配置を要望しているがまだ達成されていない。</p>						
2012年度実施計画		達成時期	2012年度取り組み結果			
留学生支援として学生部に中国語の出来る担当者（職員）についての提案。		2013/3	A 完全に達成	B 達成半ば	○	C 未達成
<p>(BまたはCの理由) 学園の人事計画の中で、中国語の出来るカウンセラー配置を要望しているが全く実施されていない。</p>						
2013年度実施計画		達成時期	2013年度取り組み結果			
学生相談室に中国語の出来る担当者（職員）を配備し、中国からの留学生の支援に努める。			A 完全に達成	B 達成半ば	○	C 未達成
<p>(BまたはCの理由)</p>						
2014年度実施計画		達成時期	2014年度取り組み結果			
			A 完全に達成	B 達成半ば	○	C 未達成
<p>(BまたはCの理由)</p>						
2015年度実施計画		達成時期	2015年度取り組み結果			
			A 完全に達成	B 達成半ば	○	C 未達成
<p>(BまたはCの理由)</p>						

## 改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	国際交流推進の基本方針
改善方策	<p>【3-143-2】</p> <p>留学生支援のためのカウンセラー（中国語の話せる）の配備。</p>

(2011年3月31日現在)

### 【現状の説明】

留学生・交流学生の生活、勉学、精神的等に問題が生じた時、特に中国語の話せる相談員がいないのが現状である。留学生のほとんどが中国人留学生である現状からも早急に相談員が必要である。

所見

チューターの位置づけが不明確なので、まずは最初の段階として、学生相談室を利用して、留学生のニーズに対応できる相談員を配備することから始めると手続き的にも容易かと思われます

(2012年3月31日現在)

### 【現状の説明】

留学生数に占める割合の多い中国人留学生・交流学生の生活、勉学、精神的等に問題が生じた時に中国語の話せる相談員（カウンセラー）がいないのが現状であるが、学園の人事計画でその人員の配置が実施されていない。

所見

中国語の話せる相談員（カウンセラー）の配置について、学生部との合意を前提に、学園の人事計画での実現を要請してください。

(2013年3月31日現在)

### 【現状の説明】

学園の人事計画の中で、中国語の出来るカウンセラー配置を要望しているがまだ全く実施されていない。

所見

提出期日までに未提出。次回からは期日を厳守してください。

2013年度が計画達成期限ですので、学生部とともにカウンセラーの配置の要望を一層強めるよう期待します。

改善方策実施計画書 担当部局：国際交流センター 責任者：国際交流センター所長 幹事：国際交流センター事務室  
2011年3月10日

認証評価指摘事項						
点検・評価問題点	国際交流推進に関する基本方針					
改善方策	<b>【3-143-3】</b> 留学生用ホームページ開設。					
計画	前期		中期		後期	
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
			→			
2010年度実施計画		達成時期	2010年度取り組み結果			
大東大HPの英語・中国語バージョンの導入。		2010/12	A完全に達成	○	B達成半ば	C未達成
(BまたはCの理由) 英語・中国語バージョンは必要最小限の情報のみで、かつデザイン的にも貧弱。さらに改善が必要である。						
2011年度実施計画		達成時期	2011年度取り組み結果			
デザイン面を含めた英語・中国語バージョンの拡充。		2012/3	A完全に達成	○	B達成半ば	C未達成
(BまたはCの理由) 留学生HPに必要な大学教育の全般の情報を網羅するまでには至っていない。						
2012年度実施計画		達成時期	2012年度取り組み結果			
英語・中国語HPの更なる拡充。			A完全に達成	○	B達成半ば	C未達成
(BまたはCの理由) 留学生が必要とする情報が、HPの中に網羅的に入っている状況にはない。						
2013年度実施計画		達成時期	2013年度取り組み結果			
大学全体で、HP改定委員会の設置を受けて、日本語・英語・中国語のHP内容の改善に努める。			A完全に達成	○	B達成半ば	C未達成
(BまたはCの理由)						
2014年度実施計画		達成時期	2014年度取り組み結果			
			A完全に達成	○	B達成半ば	C未達成
(BまたはCの理由)						
2015年度実施計画		達成時期	2015年度取り組み結果			
			A完全に達成	○	B達成半ば	C未達成
(BまたはCの理由)						

## 改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	国際交流推進の基本方針
改善方策	【3-143-3】 留学生用ホームページ開設。

(2011年3月31日現在)

### 【現状の説明】

2010年度にホームページの英語・中国語バージョンを手配したが、情報は必要最小限にとどまり、デザイン的にもきわめて貧弱である。今後、CROSSINGデータを反映して内容を充実したい。

所見	CROSSINGとの連携が重要なのではないかと思われます。
----	-------------------------------

(2012年3月31日現在)

### 【現状の説明】

留学生が大学のHPにアクセスして得たい情報の最たるものは、入学方法と教育・研究の内容である。国際交流センターのHPで基本的な留学生用の情報は取得できるが、大学全般のカリキュラム等との連携が必須であり、全学的な取り組みをしていく必要が喫緊の課題である。

所見	全学的な取り組みを進めるためには、国際交流センターが中核となって各学部、研究科に対して必要な情報の範囲、内容等を示して原稿の執筆依頼をしていくことが必要と思われます。
----	---

(2013年3月31日現在)

### 【現状の説明】

留学生が必要とする情報が、HPの中に網羅的に入っている状況にはない。大学全体で、HP改定委員会の設置を受けて、日本語・英語・中国語のHP内容の改善に努める。

所見	提出期日までに未提出。次回からは期日を厳守してください。 計画達成年度（2012年度）が経過したので、早急に進展するよう努めて下さい。
----	--

改善方策実施計画書 担当部局：国際交流センター 責任者：国際交流センター所長 幹事：国際交流センター事務室

2011年3月10日

認証評価指摘事項							
点検・評価問題点	国際交流推進に関する基本方針						
改善方策	<p>【3-143-4】</p> <p>同窓会海外支部の創設などを図る。</p>						
計画	前期		中期		後期		
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	
				→			
2010年度実施計画		達成時期	2010年度取り組み結果				
「台湾同窓会」の創設。		2010/12	A 完全に達成	<input type="radio"/>	B 達成半ば	<input type="radio"/>	C 未達成
(BまたはCの理由)							
昨年度の「韓国同窓会」創設に次いで「台湾同窓会」創設準備が進行しているが、さらに多角的な展開が望まれる。							
2011年度実施計画		達成時期	2011年度取り組み結果				
「中国同窓会」の創設。		2012/3	A 完全に達成	<input type="radio"/>	B 達成半ば	<input type="radio"/>	C 未達成
(BまたはCの理由)							
「台湾同窓会」が発足して、東京で支部総会が開催された。しかし、「中国同窓会」の準備は未着手である。							
2012年度実施計画		達成時期	2012年度取り組み結果				
東南アジア方面(たとえばタイ)での同窓会創設を検討。		2013/3	A 完全に達成	<input type="radio"/>	B 達成半ば	<input type="radio"/>	C 未達成
(BまたはCの理由)							
「韓国同窓会」、「台湾同窓会」は定期的に東京で支部総会を開いて活動しているが、「中国同窓会」の設立には至っていない。							
2013年度実施計画		達成時期	2013年度取り組み結果				
「中国同窓会」、さらに東南アジア方面(たとえばタイ)での同窓会創設を検討。		2014/3	A 完全に達成	<input type="radio"/>	B 達成半ば	<input type="radio"/>	C 未達成
(BまたはCの理由)							
2014年度実施計画		達成時期	2014年度取り組み結果				
			A 完全に達成	<input type="radio"/>	B 達成半ば	<input type="radio"/>	C 未達成
(BまたはCの理由)							
2015年度実施計画		達成時期	2015年度取り組み結果				
			A 完全に達成	<input type="radio"/>	B 達成半ば	<input type="radio"/>	C 未達成
(BまたはCの理由)							

## 改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	国際交流推進の基本方針
改善方策	【3-143-4】 同窓会海外支部の創設などを図る。

(2011年3月31日現在)

### 【現状の説明】

2009年度の「韓国同窓会」創設に次いで、2010年度には「台湾同窓会」を創設した。この成果を生かしつつ、2011年度には何らかの形で「中国同窓会」の創設を実現したい。

所見	より具体的な計画を立てる必要があるようです。改善方策については未着手という判断でよいのでしょうか。
----	---

(2012年3月31日現在)

### 【現状の説明】

「韓国同窓会」、「台湾同窓会」に次いで、「中国同窓会」創設を準備したが、学生の名前、住所を古い学籍簿から丹念に拾つていく作業に着手したが、実際にその同窓会を発足させるまでには至っていない。

所見	中国同窓会の創設には、韓国、台湾以上の労力がかかると思いますので、地域や学部・研究科を絞るなどの工夫をしてみてはどうでしょうか。
----	--

(2013年3月31日現在)

### 【現状の説明】

「韓国同窓会」、「台湾同窓会」は定期的に東京で支部総会を開いて活動しているが、「中国同窓会」の設立には至っていない。今年度は、「中国同窓会」の設立に向けて努力したい。さらに、東南アジア方面（たとえばタイ）での同窓会創設を検討したい。

所見	提出期日までに未提出。次回からは期日を厳守してください。 昨年の所見と同様ですが、中国同窓会について、特定の地域、卒業学部等に絞るなどして、部分的にでも発足させるよう努めることを期待します。
----	--

改善方策実施計画書 担当部局：国際交流センター 責任者：国際交流センター所長 幹事：国際交流センター事務室

2011年3月10日

認証評価指摘事項						
点検・評価問題点	国際交流推進に関する基本方針					
改善方策	<p>【3-144-1】 「国際交流ガイドライン」に基づく国際交流の積極的推進。</p>					
計画	前期		中期		後期	
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
			→			
2010年度実施計画		達成時期	2010年度取り組み結果			
2009年度に「国際交流ガイドライン」を策定。全学の国際交流協定の精査。		2010/12	A 完全に達成	○	B 達成半ば	C 未達成
			(BまたはCの理由)			
			形骸化した交流協定・機能麻痺に陥った交流協定につき、再活性化あるいは廃止の措置を進める必要がある。			
2011年度実施計画		達成時期	2011年度取り組み結果			
休止状況にある交流協定につき、推進部局の意思確認。		2012/3	A 完全に達成	○	B 達成半ば	C 未達成
			(BまたはCの理由)			
			休止状態の交流協定の見直しに先んじて、現在進行中の交流協定の更新に取り組み作業を傾注した。			
2012年度実施計画		達成時期	2012年度取り組み結果			
交流協定の見直しを推進。			A 完全に達成	○	B 達成半ば	C 未達成
			(BまたはCの理由)			
			ワイカト大学等休止状態の交流協定の見直しは進んでいるが、まだ完全ではない。			
2013年度実施計画		達成時期	2013年度取り組み結果			
交流協定の見直しを推進すると同時に、新しい交流協定校の締結に向けて努力する。			A 完全に達成	○	B 達成半ば	C 未達成
			(BまたはCの理由)			
2014年度実施計画		達成時期	2014年度取り組み結果			
			A 完全に達成	○	B 達成半ば	C 未達成
			(BまたはCの理由)			
2015年度実施計画		達成時期	2015年度取り組み結果			
			A 完全に達成	○	B 達成半ば	C 未達成
			(BまたはCの理由)			

## 改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	国際交流推進の基本方針
改善方策	<b>【3-144-1】</b> 「国際交流ガイドライン」に基づく国際交流の積極的推進。

(2011年3月31日現在)

### 【現状の説明】

2009年度に「国際交流ガイドライン」を策定。全学の国際交流協定の精査を実施した。5年以上交流実績のない交流協定については中心的学部学科に協定を維持するか破棄するかなどの方針を問い合わせる体制とした。

所見	方策が具体性を欠くため、結果について判定できません。
----	----------------------------

(2012年3月31日現在)

### 【現状の説明】

交流協定校の中で、交流実績のない交流協定の洗い直し作業に入る前に、現在積極的に交換を行い進行中の交流協定校の中で、交流期限を過ぎて更新していない所が多々あり、その更新業務に主に取り組んだ。

所見	交流実績のある協定校の更新を優先した事情はわかりますが、形骸化、機能麻痺等の協定の精査も同時進行していただきたいと思います。
----	--

(2013年3月31日現在)

### 【現状の説明】

ワイカト大学等休止状態の交流協定の見直しは進んでいるが、まだ完全ではない。さらに、新しい交流協定校の締結に向けて努力したい。

所見	提出期日までに未提出。次回からは期日を厳守してください。 計画達成年度（2012年度）を経過したので、形骸化した協定の見直しとともに必要な協定の締結を急いで下さい。
----	---

改善方策実施計画書 担当部局：国際交流センター 責任者：国際交流センター所長 幹事：国際交流センター事務室

2011年3月10日

認証評価指摘事項	【助言】（一定の学部・研究科では）留学生の派遣、受入実績および国際シンポジウムなどの国際交流が活発でないので、改善が望まれる。					
点検・評価問題点	全学的には国際交流の目標を定め、各学部・研究科においても到達目標として国際交流の推進を掲げているが、一部の学部・研究科ではその実績があがっていない。					
改善方策	3-146(新規) 助言は直接的には各学部・研究科における国際交流の低調を改善すべしと指摘しているが、本学全体の国際化を担う国際交流センターとしてこれを制度的に支援できるよう、「大学の国際化・教育の国際化・研究の国際化」という三つの局面で改善に努める。					
計画	前期		中期		後期	
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
				→		
2010年度実施計画		達成時期	2010年度取り組み結果			
本学の国際化を大綱化する「大東文化大学の国際戦略大綱」（以下「大綱」と略記）の策定に着手。		2011/3	A完全に達成	B達成半ば	○	C未達成
			(BまたはCの理由)			
			センターとして「国際戦略の大綱化」の必要性は痛感されてきたが、具体的着手としては、次期執行部への事務引き継ぎ項目に明記されるにとどまった。			
2011年度実施計画		達成時期	2011年度取り組み結果			
'大綱'の全学的承認とその具体化の検討。		2012/3	A完全に達成	○	B達成半ば	C未達成
			(BまたはCの理由)			
			'国際交流将来構想委員会'（仮称）を設置して、大学全体の国際化、国際交流の全体像の企画・提言して行くこととした。			
2012年度実施計画		達成時期	2012年度取り組み結果			
'国際交流将来構想委員会'（仮称）具体案のうち準備可能なものから隨時実現（前期）		2013/3	A完全に達成	○	B達成半ば	C未達成
			(BまたはCの理由)			
			'大東文化大学国際交流基本計画'を策定し、今後の国際化、国際交流の促進を図っていくこととした。			
2013年度実施計画		達成時期	2013年度取り組み結果			
'大東文化大学国際交流基本計画'を策定し、今後の国際化、国際交流の促進を図っていくことと同時に、大学改革推進委員会の国際交流の将来像を受けて、さらなる国際化を図っていくこととした。		2014/3	A完全に達成	○	B達成半ば	C未達成
			(BまたはCの理由)			
2014年度実施計画		達成時期	2014年度取り組み結果			
			A完全に達成	○	B達成半ば	C未達成
			(BまたはCの理由)			
2015年度実施計画		達成時期	2015年度取り組み結果			
			A完全に達成	○	B達成半ば	C未達成
			(BまたはCの理由)			

## 改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	【助言】(一定の学部・研究科では) 留学生の派遣、受入実績および国際シンポジウムなどの国際交流が活発でないので、改善が望まれる。
点検・評価問題点	全学的には国際交流の目標を定め、各学部・研究科においても到達目標として国際交流の推進を掲げているが、一部の学部・研究科ではその実績があがっていない。
改善方策	3-146(新規) 助言は直接的には各学部・研究科における国際交流の低調を改善すべしと指摘しているが、本学全体の国際化を担う国際交流センターとしてこれを制度的に支援できるよう、「大学の国際化・教育の国際化・研究の国際化」という三つの局面で改善に努める。

(2011年3月10日現在)

### 【現状の説明】

センターとして「国際戦略の大綱化」の必要性は痛感されてきたが、具体的着手としては、センター管理委員会において所長私案を参考に供したもの、大綱の成文化については次期執行部への事務引き継ぎ項目に明記されるにとどまった。たとえば：

- ①大学の国際化：国際危機管理マニュアル、海外事務所（上海・ソウル・台北等）、欧米（英国・北米等）など
  - ②教育の国際化：ダブル・ディグリー制度、セメスター制度、9月入学、海外指定校制度など
  - ③研究の国際化：国際シンポジウム、教員研究成果の公開システム、英文出版の奨励など
- などが含まれる。

所見	大綱を作成し、具体的な国際交流の推進を全学的に統括する役割を期待します。
----	--------------------------------------

2011年度からの新委員会にて具体的な方向性を検討し、具体的な計画を立案してください。

(2012年3月31日現在)

### 【現状の説明】

昨年度の「国際戦略の大綱化」を盛り込んだ国際交流センターが担うべき役割の具体的な企画と立案をする「国際交流将来構想委員会」(仮称)を立ち上げ、昨年度の三つの局面（大学・教育・研究の国際化）を含む国際交流の在り方を検討する委員会を発足させた。

所見	「国際交流将来構想委員会」(仮称)を立ち上げ、三つの局面（大学・教育・研究の国際化）を含む国際交流の在り方の検討を開始したことは評価します。議論の進展と早期のとりまとめを期待します。
----	---

(2013年3月31日現在)

### 【現状の説明】

「大東文化大学国際交流基本計画」を策定し、今後の国際化、国際交流の促進を図っていくが、同時に大学改革推進会議の国際交流部門で国際交流の将来像を提言し、さらなる国際化を図って行く。

所見	提出期日までに未提出。次回からは期日を厳守してください。
----	------------------------------

2013年度が計画達成年度なので基本計画の策定を確実に行うとともに、大学改革推進会議の提言を踏まえた対応にも努めることを期待します。

